

第12回浙江大学医学院附属邵逸夫医院麻醉科主催国際アカデミックweekより

## NEW ERA CHINA AND JAPAN

### 「中日脳脊髄漏研究会」

浙江大学医学院附属邵逸夫医院 Sir Run Run Shaw Hospital 2017.10

症例700例以上 **ブラッドパッチ有効率96%**



Zhōng tài dī  
钟泰迪麻醉科教授

Liú lì mǐn 刘利民  
大学病院副学長

Hé fēi fāng  
何非方医師



浙江大学医学院附属邵逸夫医院  
 麻醉科&疼痛科 副主任 何非方 (FEIFANG HE) 医師よりコメント



今回の学会は素晴らしいものとなりました。まさしく中国脳脊髄液減少症研究会として新たな治療の発展の始まりとなる会合だったと思います。  
 また日本でより進んだ髄液漏れの治療法を学ぶ機会を期待しております。  
 認定NPO脳脊髄液減少症患者・家族支援協会 中井氏は本当に素晴らしい非営利団体を立ち上げられ、多くの髄液漏れの患者さんを救済されております。その活動は医師にとってもありがたく、そして重要な活動であることは間違いありません。  
 今回石川慎一医師(姫路赤十字病院 ペインクリニック部長)とともに学会に参加いただきありがとうございました。



参考

神経内科教授 胡兴越 Húxìngyuè 先生より中井の講演の後 若い参加医師(聴講者)に対しコメントをいただきましたご紹介しします。



髄液もれはさほど珍しい病気ではありません。  
 何非方 (FEIFANG HE) 医師より紹介があったように我々の病院 (CSFセンター 神経内科・麻醉科(ペイン科含む)・放射線科) からなるチーム) では700名以上の患者にブラッドパッチ治療を行い、有効率は96%以上を維持しています。時折、硬膜外麻酔後に低髄液圧症候群となった患者が当院を訪れ、我々はSIH(特発性低髄液圧症候群)と識別し、ブラッドパッチを実施し、症状は回復されています。これらは患者と医師の間の事例や誤解の対処に有効となります。

編集後記

中国では特発性低髄液圧症候群の治療を主におこなっています。しかし、原因の中にはスポーツなどの外傷後に発症した例も少なくないとの事でした。中国全土から患者が来院し、何非方医師はこの事実を中国各地で講演されているそうです。



From 何非方 (FEIFANG HE) 医師 offer



浙江大学附属病院を訪問して  
 姫路赤十字病院 麻酔科ペインクリニック部 石川 慎一

2017年10月13日から15日までの3日間、中国浙江省杭州にある浙江大学附属病院(Sir Run Run Shaw Hospital)を訪問しました。この附属病院は中国で初めて脳脊髄液漏出症センターを設立しています。副センター長である何非方先生の招待を受けて、私は昨年続く2回目の病院訪問となりました。昨年は脳脊髄液漏出症に関する講演を行い、外来や病棟での患者診察を見学後に手術室で硬膜外自家血注入(ブラッドパッチ)を行いました。

本年は浙江大学主催のAcademic weekにおいてNPOの中井宏さんとともに招待されました。中井さんは日本における漏出症診療の状況や政府およびNPOの取り組みについて、私は主に脳脊髄液漏出症の画像診断に関して講演しました。漏出症センターおよび中日脳脊髄液漏研究会の設立に対する記念写真撮影もあり大変光栄に思いました。

何先生との出会いは11年前の2006年までさかのぼります。当時私は岡山大学大学院医歯薬学総合研究科に入学して脳脊髄液減少症を研究テーマとしつつ、岡山大学病院でペインクリニックを中心に診療を行っていました。何先生は大学院留学生として来日中で、私のペインクリニック治療にも興味があり何回か見学する機会を設けました。その一つに硬膜外自家血注入治療がありました。その後、何先生は中国に帰国して脳脊髄液漏出症の診療を始められ、症例はどんどん増えて今では700症例を越えたと聞いています。最近では中国全土から(1000km以上離れたチベットからも)患者さまが来院されています。

私は2007年に硬膜外自家血注入治療の混合診療に関して厚生労働省から監査指導を受けた理由から2016年にこの治療が保険収載されるまでの長い期間にわたり脳脊髄液漏出症に関する診療の中断を余儀なくされました。現在は姫路赤十字病院で精力的に診療を行っておりますが、今回の杭州訪問では時と国境を越えて脳脊髄液漏出症の診療が行われていることに改めて感動を覚えました。また同時にこの分野でも日本は中国に追い越されるのではないかと感じました。日本でも2017年4月より福山医療センターに漏出症センターが設立され、私も非常勤医師として携わっています。福山医療センター守山英二医師、明舞中央病院中川紀充医師、金田病院溝淵雅之医師と連携をとりながら、脳脊髄液漏出症の診療およびさらなる解明に寄与できればと思います。



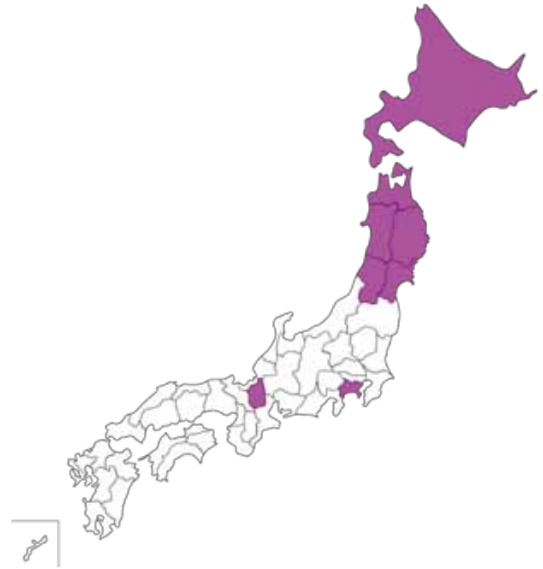
国際医療福祉大学付属熱海病院 脳外科教授  
 日本脳脊髄液減少症研究会代表世話人 篠永正道教授

「今までは日本を中心に脳脊髄液減少症が広がっていましたが、今回の浙江大学医学部附属病院主催の学会はとても有意義で国際的な広がり第一歩だと思いますし、大きな意味があると感じています、今後は中国以外の国にも交流を広げていければと思います。」

CSF JAPAN  
 脳脊髄液減少症を知っていますか?  
 医師専用のホームページです  
 治療や診断に関する参考データや動画が見れるサイトで  
 症例数の多い厚労省脳脊髄液減少症研究協議会の医師に  
 アドバイスを受ける事ができます

CSF JAPAN  
 脳脊髄液減少症を知っていますか?  
 脳脊髄液減少症小児・若年者・学校  
 関係者 救済相談フォーム

2017.11.16日現在  
 青色はリンク済  
 緑はリンク準備中





# 2017年小児の脳脊髄液減少症研究推進の署名



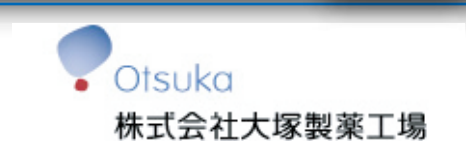
多くの真心と必死と執念の署名ありがとうございました。関係者一同深く御礼申し上げます。

## 浙江大学での中井の講演の一部



内容 憧れの国、そして大恩の国に初めて訪問できた事は何先生のおかげであり、本来、私は日中国交の中国側の立役者 周恩来総理と婦人の鄧穎超の夫婦愛そして日本に対し、とてつもない大きな心で日中国交正常化を成し遂げてくださった事に人間として尊敬申し上げていることを述べました。また日本のおかれている脳脊髄液減少症の状況や政府に委託された研究班の成果を説明しました。又、日本において脳脊髄液減少症が社会問題に発展した経緯や篠永正道先生が本疾患に気づいた事も説明。現在の問題点、今後の課題、その対策としてCSF-JAPAN サイトを世界に広げて行くことが重要であると話し、最後に聴講者が若い医師が多かったので、私の好きなモンテクリスト伯の最後のフレーズ「いや待て、しかして希望せと」を若い医師に贈りますとって講演を終えました。

**脳脊髄液減少症世界発信DB事業について**  
 本事業は日本財団一般助成事業2017年度において行われています。  
 収支に関するお問い合わせその他は当会事務所まで。日本財団様には深く御礼を申し上げます。



## 認定 特定非営利活動法人 脳脊髄液減少症患者・家族支援協会

和歌山県指令県民第10300001号

【和歌山事務所】 TEL.073-461-0317 FAX.050-1028-6789

【首都圏事務所】 〒2320071 横浜市南区永田北1-1-15 コーポラス永田402号  
 脳脊髄液減少症患者・家族支援協会 事務局 中井宏宛  
 TEL. 045-716-4646 FAX. 045-716-4646

(URL) <http://www.npo-ASWP.org> (e-mail) [staff@npo-ASWP.org](mailto:staff@npo-ASWP.org)

郵便振替口座番号：00950-9-181981

口座名称：特定非営利活動法人 脳脊髄液減少症患者・家族支援協会

禁無断転載上映複写 発行人：特定非営利活動法人 脳脊髄液減少症患者・家族支援協会  
 落丁・乱丁があれば、事務局にお送りください。送料事務局負担でお取り替えいたします。

3000円以上の寄付は税控除の対象になるのが認定NPO法人のメリットです

会員さん募集！

入会を希望される方は、メール又はお電話でご連絡ください。申し込み用紙を送付しますので必要事項を記入し、会費同封の上ご郵送ください。

- 正会員(個人)  
入会金5000円 年会費10,000円
- 賛助会員(個人) 入会金 5,000円  
年会費5,000円  
(年会費寄付扱い税控除の対象)
- 団体賛助会員 入会金 50,000円  
年会費200,000円  
(年会費寄付扱い税控除の対象)
- スポンサー賛助会員 年会費  
(年会費寄付扱い税控除の対象)  
30,000円

